

## がん検診におけるインフォームド・コンセントに関する検討 (16-94)

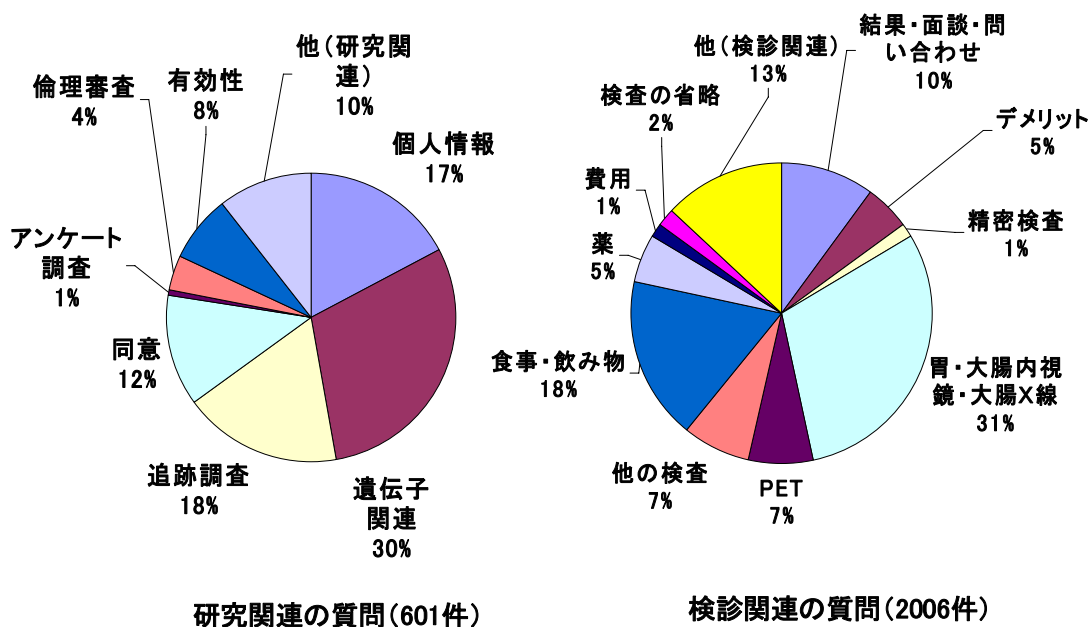
がん検診をおこなう検診機関では、これまで、検診や研究に関するインフォームド・コンセントはほとんど行われていませんでした。しかし、がん予防・検診研究センターは、がんの予防や検診に関する研究を行うことを目的の一つとし、開設時から、インフォームド・コンセントを行っています。

開設時から 1 年間にわたる質問の傾向を分析し、特に質問の多かった内視鏡検査については説明方法の改善を行い、その成果を評価しました。この結果を専門誌で論文発表しましたので、ここに概要を紹介します (日本がん検診・診断学会 2006 年第 13 巻第 2 号)

### 受診者からの質問

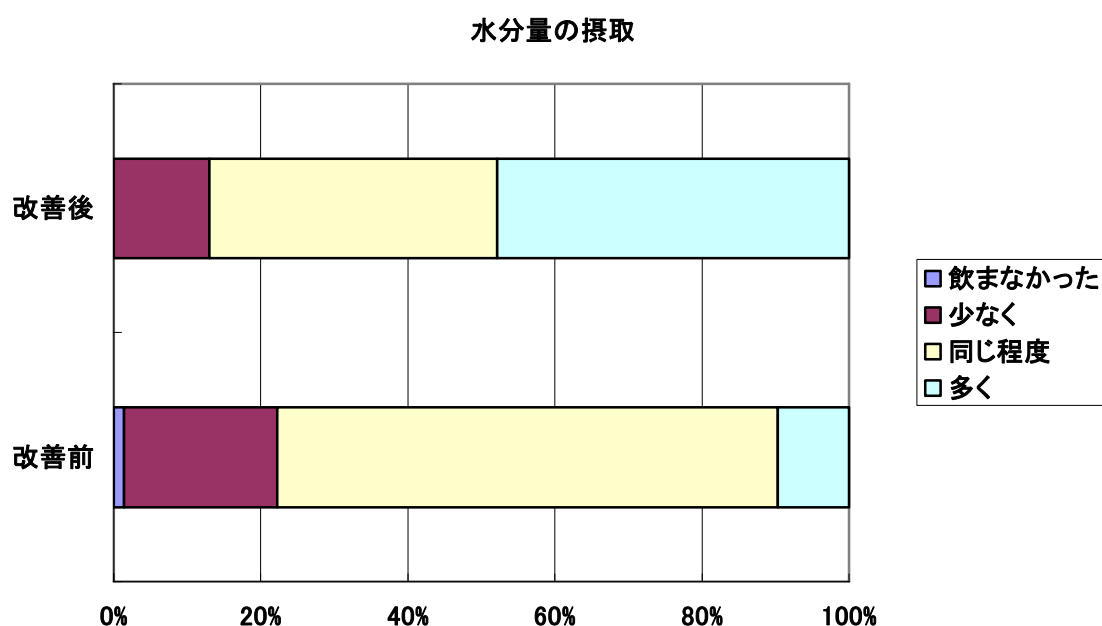
2004 年から 2005 年 1 月までの 1 年間に、検診受診者 3789 人 (男性 2063 人、女性 1726 人) にがん検診と研究に関する説明を行い、検診と研究協力について同意をいただきました。1 年間に寄せられた質問は、研究関連が 601 件、検診関連が 2006 件でした。質問項目についてみると、研究については遺伝子関連の質問が最も多く、30%を占めています。一方、検診関連の質問では、胃・大腸内視鏡と大腸 X 線に関する質問が最も多く、31%を占めています。

## 受診者からの質問内容



## 内視鏡検査に関する説明の改善と成果

質問の多かった内視鏡検査について、前日の食事についてメニュー例を示したり、水分を十分にとることなど、具体的な注意事項を含んだ説明用紙を配布し、その効果を検討しました。食事に関する説明について、説明方法の改善前後で理解度には変化がありませんでした。夕食の摂取量や内視鏡検査医による腸内残渣の評価に変化はありませんでしたが、水分量の摂取については、飲まないと回答する人は1.4%から0%に減少し、多く摂取したとの回答は9.7%から47.8%に増加しました。



1年間の経験を踏まえ、がん予防・検診研究センターにおけるインフォームド・コンセントの形式はほぼ確立しました。ただし、内視鏡検査の説明においては未だ不十分な点もあり、改善の余地を残しています。

がん検診においても、他の医療サービスと同様に、がん検診の利益と不利益について、正しく伝え、その情報に基づき、受診の判断ができるようにする必要があります。特に、個人情報保護法との関連から追跡調査について正しい説明をすることが求められるようになってきました。

がん予防・検診研究センターの経験から、他の医療機関でも、がん検診におけるインフォームド・コンセントを実施する可能性が示されました。この経験を踏まえ、インフォームド・コンセントのためのツール（説明用のスライド、パンフレットなど）の開発についても検討していく予定です。